

まちづくり の大綱



将来都市像：未来にはばたく国際学術研究都市 ～ともに育み、人が輝くまち～

将来都市像等に基づき、目指すべきまちの方向性を示した5つの柱で構成される「まちづくりの大綱」。

- 1. 人づくり
- 2. 安心づくり
- 3. 快適づくり
- 4. 活力づくり
- 5. 自立のまちづくり

「まちづくりの大綱」を基に行われている具体的なまちづくりの姿をご紹介します。

1. 人づくり

個の力が発揮でき、
人の力で発展していくまち

- ①一人ひとりの人権が大切にされる共生のまち
- ②新しい時代を担う子どもたちを育むまち
- ③自らの興味・関心に応じていつでも学び、活躍できるまち
- ④豊かで多様な人間関係が広がるまち



一校一和文化学習

西条小学校 オペラ「白壁の街」

誇り受け継ぎ演じる酒造り オペラ「白壁の街」

昭和56年、当時の西条小学校教員によって創作されたオペラ「白壁の街」。酒都西条の伝統的産業である酒造りを、歌や合奏、太鼓、踊り等で表現したものです。以来、同小の6年生が演じ続け、平成30年度は38代目になります。



オペラ「白壁の街」を演じることは、児童にとってあこがれであり、誇らしいもの。入学時から徐々に酒造りについて学び、その気持ちが高まっていきます。6年生になると、酒造り関係者らに話を聞き、公開オーディションに臨みます。役が決まった6月からは、休憩時間を使った自主練習がスタートします。

「練習が始まると、競争社会の中にあいながら、みんなと合わせようと努力したり、できない子を教えたりする姿が見られます」と話す島本智子校長。児童も

「行動が素早くなり、切り替えができるようになった」「他人事と思っていたが、互いに声を掛け合うようになり、クラスがまとまってきた」と変化を感じています。

オペラ「白壁の街」を演じることは、大人になっても愛校心や郷土愛、共通の思い出を語り合える、素晴らしい経験となっています。



また、食べる人のことを思ってあしらう野菜の飾り切りの実演からは、和食のおもてなしの心も学びます。授業を終えて「身だしなみや挨拶は大切なことと分かった」「思いやりやおもてなしの心を持ちたい」と話す生徒たち。

和食への学びを通じ、生き方への学びや心の成長にもつながっています。

伝統の味に学ぶおもてなしの心 「和食」を通じた心の教育



八本松中学校では、「グローバル社会を生きる生徒を育てるため、日本の食文化を知ることが大切」ととらえ、和食の基本である「だし」について学びます。

2年生の授業では、料理のプロを講師に、昆布とかつお節を使った「一番だし」を作る実演を見学。本物の「だし」の味とともに、プロとしての身だしなみや味覚を作る食生活の大切さ、命あるものをいただくことの重みも学びます。

一校一和文化学習

東広島市では平成20年から、自国の文化を大切にすることを養うことを通じて他国の文化を尊重し、日本人としてのアイデンティティを培い、グローバル社会で活躍できる子どもを育てるため、市内の全ての市立幼稚園、小・中学校で一校一和文化学習に取り組んでいます。